

アイキン熱処理工業 株式会社
代表取締役

澤田 啓介氏

(さわだ けいすけ)

熟練技と情熱が発する機動力

Company Profile

アイキン熱処理工業 株式会社

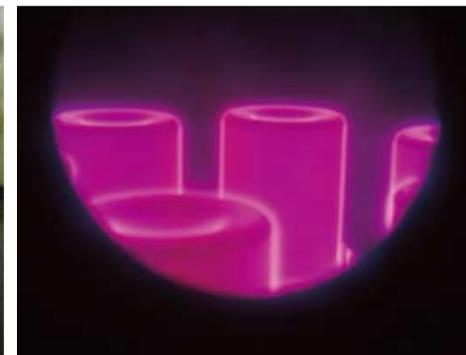
所在地：愛知県名古屋市南区道全町2-29-1
TEL：052-822-7331 FAX：052-822-7332

事業内容：真空焼入れ焼戻、素材調質、イオン窒化、焼きならし、焼きなまし、焼きバメ

エミダス会社情報：http://www.nc-net.or.jp/emidas/gaiyou.php? 81121



熟練の技が活かせる現場



窒素利用でヒズミや変形の少ない高度な表面硬化処理を行う

お客様第一の経営方針

アイキン熱処理工業は名古屋市内に3工場体制を構える。主に金型や鍛造品を扱う熱処理メーカーであり、自動車や工作機械業界を中心とした製品の加工を行っている。また機動性と技術力の高さでは定評がある。

1967年の創業、と熱処理を手がける企業としては後発であったが、“受注数に関係なく毎日熱処理炉を稼働させる”当時では画期的な取り組みを貫き、顧客数拡大と社内の熱処理業界における位置を確立していった。

二交替を柱にして

現在2代目を務める澤田啓介氏は1992年に代表取締役へ就任した。当時、同社もバブル崩壊の煽りを受けており、経営は数億の負債を抱えた状況だった。再建を図るために澤田社長は様々な取り組みを行った。

そのひとつとして、時代の流れとお客様の熱処理におけるニーズに応じていくため新設備の導入を行い、大きな成果を上げた。手で炉の中に放り込んで掻き出すという原始的な作業から、新設備によって商業化・商品化を図ったのである。

また社内改革として、夕方にお客様のところへ品物を取りに行き、夜中に加工をして翌日の朝に納品するというスタイルを早くから確立した。お客様側は1日の終業を迎えた頃、加工に出し、翌日の始業の際には熱処理の済んだ製品を手にして次の工程に進むことが出来るた

め、大変に喜ばれていた。

熟練の技と誠意を込めた対応

近年では熱処理炉もコンピューター制御が進み、温度や時間の管理・設定に苦勞することはなくなってきたものの、仕上げには微妙な差が生まれる。そこで同社では現場の熟練技能者が蓄積したノウハウをもとに、炉への製品(ワーク)のセット方法にはとことんこだわった。部品関係ではなく単品物を扱う同社では、毎日違うものを加工する。大小さまざまなものを焼くため、曲がりやひずみ、焼きムラなどをいかに少なくするかが現場のノウハウとなる。そのため毎日受注した商品を通りチェックし、最適な並べ方、最適な治工具を決めてから熱処理に臨んでいる。

同社では従業員約35名のうち、国家資格である特級金属熱処理技能士2名、1級金属熱処理技能士4名、2級6名が活躍している。また営業担当者についてもお客様対応において熱処理知識の必要性があるため、資格の取得には会社をあげて取り組んでいる。現在、アイキン熱処理では300社以上の取引があり、単品物を手掛ける熱処理メーカーとしての信頼を確かなものとしている。営業においては技術提案を行い、お客様の要望に対してキメの細かい迅速な対応をしている。

未来へ向けるたゆまぬ努力

アイキン熱処理の生産拠点は素形材の焼き入れや焼きならし、焼きなましを

行う第1工場、真空、雰囲気焼入れやプラズマ(イオン)窒化処理を行う第2工場、真空焼き入れ焼戻し専門の第3工場の3つで、いずれも名古屋市南区に構えている。第3工場は2006年2月に稼働した新工場で、真空炉と自社で研究開発した焼戻し炉を2基ずつ導入、月間30トン熱処理できるようにした。自動車関連向けの金型(ダイス鋼)や鍛造品の受注増に対応したもので、新工場の稼働で全体の生産能力を約20%増強できた。

同時期に設立した子会社のアイキン産業ではS-C、SCM溶断材の焼きなまし後や、鍛造金型材の機械加工前の下処理ニーズにこたえるべく六面削加工に参入。メインの熱処理と関係深い事業として熱処理周辺の仕事にも挑戦し始めた。

澤田社長は、次のように語る。今後は新技術・新事業への積極的な取り組みも行っていくと同時に、焼入れ後の表面処理・機械加工、従来は難しいとされた分野にも参入していく。また、将来的にはアイキン熱処理、アイキン産業もすべて同じ敷地へ統合化することにより、効率の良さを図る予定である。

海外流出が進む製造業界のなかで、熱処理加工においても今後はコスト競争も激しくなることが懸念されるが、同社では企業体質の強化を高め、新規事業の育成にも力を注ぎ、新たな波に立ち向かってゆく。